

北海道教育委員会「BRIDGE構築事業」  
令和7年度（2025年度）授業等研究セミナー

# 道東・道北（情報）実施報告

- 実施日 令和7年12月3日（水）
- 会場 北海道帯広緑陽高等学校
- テーマ 教科「情報」における生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫
- 参加者 19名（参集13名＋オンライン6名）

## 実施状況

### 【学習指導案検討会】

本セミナーの研究授業等の実施に向け、「授業研究チーム」を編成し、オンラインで学習指導案の検討を実施しました。

〔構成員〕授業者 北海道帯広緑陽高等学校教諭 宮川 尊充

協力員 北海道帯広三条高等学校教諭 土田 泰裕

北海道札幌北高等学校教諭 前田 健太朗

北海道札幌北高等学校教諭 藤島 慶太

行政 ICT 教育推進課指導主事 福士 公一朗

実施日	検討内容	主な意見等
9月10日 (1回目)	単元計画 研究授業の目標	<ul style="list-style-type: none"><li>当日の時程、使用教室について確認する。</li><li>研究授業の概要について、単元は「データの活用（生成AI活用）」とし、コンピュータ室の端末とBYOD端末を生徒に選択させて併用する。</li></ul>
11月7日 (2回目)	単元計画 学習指導案 実践発表	<ul style="list-style-type: none"><li>単元は、令和6年度教育課程編成・実施の手引を、学習指導案は令和7年度の手引をそれぞれ参考にした。</li><li>実践発表は、「協働的な学びによる情報デザイン」をテーマとする。見学旅行の自主研修報告を情報デザインの視点から教材として扱う実践を紹介する。</li><li>情報デザインは他の単元との関連性が高いことから、単元を横断する指導の事例にもなる。</li></ul>
11月28日 (3回目)	学習指導案 実践発表 当日のオンライン配信	<ul style="list-style-type: none"><li>学習指導案及び実践発表資料の記載内容について確認する。</li><li>本時の目標を踏まえて、指導上の留意点について確認する。</li><li>会場におけるオンライン配信機材等について確認する。</li></ul>



研究授業の実施

[単元計画・学習指導案リンク](#)



[実践発表資料リンク](#)



### 【研究授業】

〔授業者〕 北海道帯広緑陽高等学校教諭 宮川 尊充

〔対象生徒〕 1年3組 〔単元名〕 データの活用

〔本時の目標〕

- ・身近な「桜の開花予想」を題材に、生成AIを含む複数の情報源を比較しながらデータ収集と前処理を行い、得られたデータを評価し、分析に適した形へ改善しようとする態度を育てる。

〔本時のポイント〕

- ・「帯広市の桜の開花日」について、過去10年分のデータを収集する。
- ・「2020年の帯広市の桜の開花日」を生成AIに尋ね、生成された回答と公式情報を比べて、生成AIが、意図したデータを適切に表示できるかを検証する。
- ・データ収集における信頼性確保の重要性と、その際に生成AIを活用する有効性や課題について考察し、学びを振り返る。

〔生徒の学習の様子〕

- ・一度のプロンプト入力では期待する回答が得られないことを実感し、試行錯誤しながらプロンプトを工夫・改善しようとしていた。
- ・コンピュータ室の端末とBYOD端末を必要に応じて使い分け、周囲の生徒と対話しながら、主体的に学習活動を行っていた。生成AIの効果的な活用方法と課題を見いだそうとしていた。

### 【研究協議】（収集とオンラインのハイブリッド）

〔テーマ〕 教科「情報」における生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

〔主な意見〕

- ・「データの活用」の単元で、生成AIを活用するという発想が新しい。
- ・桜の開花日という身近な題材が、生徒の興味や関心を高めることに繋がっている。
- ・日常会話で使う生活言語と、教科書やテストで使う学習言語の違いを埋めていくことが、対話的な学びの質の向上に繋がるという発想が参考になった。

### 【実践発表】 北海道帯広三条高等学校教諭 土田 泰裕

〔テーマ〕「協働的な学びによる情報デザイン」

- ・見学旅行の自主研修報告を新聞形式で作成することを通して、情報デザインと表現の工夫について学ぶ単元を設定。
- ・新聞の用語を知ることから、記事のデータ化、レイアウト、写真の選定、題字の選定という流れに沿って、端末、クラウド、生成AIを活用しながら学習活動を進め、最後に一連の学習を振り返るという実践について、具体例を示しながら説明した。

## セミナー参加者の声

### 【参加者の声】【アンケートの記載から（一部）】

- ・個別学習による主体的な学びから協働学習による対話的な学びにつながる流れがよく分かり、生徒が考えて活動する模範となる授業でした。
- ・身近な題材や自分の経験を取り入れることで、より探究的な学びになると感じた。
- ・生徒の興味関心を引き、主体的に学習に取り組む授業を設計することについて理解が深まった。
- ・コンピュータ室の端末とBYOD端末を生徒が選択して併用する方法が参考になった。
- ・生徒の実情に合わせた配慮や教材作りをみせてもらえたので、自校の授業に役立てたい。
- ・生徒にテーマを与えて、0から1を考えさせる授業展開をしていきたい。
- ・日々、授業実践する中で授業改善することが目指すべき教育の姿だと感じた。